

第 1 回吹田市シティプロモーションアドバイザー会議（平成 29 年 9 月 29 日開催）で  
いただいたご意見と市の考え方について

1 シティプロモーション全般に関する意見・提案

No	意見	市の考え方
(1)	何かを始めるとき、行政が一から仕組みを作るのではなく、既存のシステムと連携することが大切。	シティプロモーションの推進にあたっては行政だけでなく様々な主体との連携が重要であると考えている。そのため、行政以外の主体による活動に関する情報を幅広く収集できるよう、研修会や事例発表会への参加等を通してシティプロモーションの推進に資するネットワークの拡大に努めていく。
(2)	行政の取組だけを考えるのではなく、行政以外の主体がシティプロモーションにどのように関わっているかを把握することも重要。	
(3)	行政が新しいことを創っていくことも大切だが、今ある魅力的なものを拾い上げていくことも重要。	
(4)	多くの取組が実施されているが、例えば 9 つの要素の中から代表的なものをピックアップしてそれらをプロモーションしていくのもありなのでは。	各担当部署でそれぞれの事業の充実に努めているが、シティプロモーション推進室と連携することでそれらの見せ方等を工夫することで、より効果的な情報発信につなげていきたい。ご指摘の様に、全ての事業を同列に取り扱うのではなく、市民の方々にとってより関心が高く、興味を持っていただけるような情報をピックアップしたプロモーションについての研究を重ねていく。
(5)	吹田の取組は上品でスマートだが、言葉を選ばずに言うと見どころがない。もっとダイナミックな内容を発信しても良いのでは。	
(6)	知らず知らずのうちに市民から情報されていくことが理想的。	「市民から魅力が広がる仕掛けづくり」はシティプロモーションの取組方針の一つとして掲げている事項であり、継続して様々な仕掛けづくりを実施していく。また、来年度に市民主体による各地域のローカル情報を発信する（仮称）特派員制度の設立に関する予算を計上している。公募による市民から自然や地域イベント、お店に関する情報を投稿していただく内容を想定しており、幅広く市の魅力を伝えるきっかけとしていきたい。
(7)	行政が地域の魅力を発信できる人材を育成して、エリアに応じた魅力発信ができれば良い循環が生まれるのでは。	

(8)	うわべだけでなく行政として本質的な部分も忘れないでほしい。	シティプロモーションは今ある強みを更に伸ばす視点に重点をおいており、市民生活に直結するような本質的な部分については庁内全体で行政としての責務を果たしていく。
-----	-------------------------------	--

## 2 各事業に対する意見・提案

(1)	高齢化による医療費の増加は大きな問題で、健康増進に向けた取組の一つに、歩いた歩数によって商品券がもらえるようなことを実施している自治体もあるので、ぜひ民間との連携で魅力的な施策を実現してほしい。	本市では健康ポイント事業を実施しており、事業自体は非常に好評を得ている。市町村によってかなり高額なインセンティブを付けている事例もあるが、本市では現在 2,000 円となっている。次年度以降の実施については現在予算査定中。
(2)	新しいパークカフェの運営には非常に期待している。単にお茶をするだけでも良いが、新たなコミュニティの一つに育てば良いと思う。	今年 5 月に大阪に本社を構える（株）オペレーションファクトリーを優先交渉権者に決定した。公園利用者にとって魅力的なカフェとしていきたいと考えており、今後も事業者とタイアップしながら進めていきたい。他の公園への展開について検討する社会実験の側面も持ち合わせている。
(3)	オリジナル婚姻届は一生の思い出に残る機会となる。インスタ映えするような撮影パネルもあればより良いものになる。オリジナルの出生届もあれば面白い。	オリジナル婚姻届については現在、市民課と庁内の若手職員によるチームで作成しており、年明けより配布予定としている。出生届についても今後検討していきたい。
(4)	大学との連携のあり方として、大学を巻き込んで地域の課題を解決していく手法も積極的に取り入れてはどうか。	大阪学院大学の授業の一環で P B L (probrem based learning) 形式の授業を実施しており、本市が抱える課題に対する解決手法を学生に提案いただいている。
(5)	すいたんファンクラブを設立すれば、よりすいたんのファンが増えるのではないか。	すいたんの知名度は着実に向上している状況にあり、設立にあたってはどのような手法がふさわしいかについて検討していく。
(6)	市民の小さな声を拾っていくことも重要で、suitable city をコンセプトにしているのだから、例えば SNS で「suitable」をハッシュタグにして「吹田で実現したいこと」をテ	SNS を活用した情報発信は既に実施しているが、今後は新たにインスタグラムを活用して情報収集、発信につなげるとともに、「suitable city」の周知を図って

	ーマに発信してもらうことで、市民のニーズを掴むきっかけとできるのではないか。	いきたい。
(7)	福井県鯖江市の地域デザインの分野で活躍している千里山出身の新山直弘さんのように、吹田出身で市外で活躍している人たちを通じたプロモーションも有効なのでは。	現在 4 人のPR大使がいるが、各方面で活躍している本市にゆかりのある人材発掘により有効な活用ができないか考えていきたい。